

2021年10月1日
住友生命保険相互会社

ブラックロックが運用するインフラファンドへの投資について ～再生可能エネルギープロジェクトへの投資を通じた気候変動問題への貢献～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、ブラックロックが運用する、新興国における再生可能エネルギー関連施設への投資を行うインフラファンド（以下「本ファンド」）に約55億円投資することを決定しました。

本ファンドは、アジア、南米、アフリカ等の新興国において建設・運営される、太陽光・風力などの再生可能エネルギー関連施設を投資対象としています。今後、人口増加や経済成長に伴いエネルギー需要の拡大が見込まれる新興国の低炭素社会への移行に資すると考えています。また、政府系金融機関であるドイツ復興金融公庫（KfW）やフランス開発庁（AFD）に加えて国際協力銀行（JBIC）も出資する官民協働のファンドであり、政府系金融機関と民間投資家の間でリスク・リターンを適切に配分し、民間投資家が相対的にリスクの低い優先部分を引き受ける投資スキームとなっています。



写真提供：ブラックロック

本ファンドは、環境や社会に好影響を及ぼすインパクトと投資収益を同時に追求する運用アプローチを徹底しており、SDGsに即したインパクト評価やESG項目の可視化・達成度のモニタリングを行っています。

【本ファンドの概要】

ファンド名称	Climate Finance Partnership Fund
運用会社	ブラックロック
投資対象	アジア、南米、アフリカを含む新興国における再生可能エネルギー関連施設（発電施設、蓄電・送配電施設等の付随施設）
当社投資額	50百万米ドル（約55億円）
特徴	SDGsに即した環境および社会的インパクト評価等を実施。太陽光・風力等の再生可能エネルギー発電による温室効果ガスの排出削減や節水、関連施設の建設や運営等における現地での新たな雇用の創出等を目指す。

【本件を通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】



住友生命は、「なくてはならない」生命保険会社の実現を目指し、事業活動を通じた SDGs の達成に向けた取組みを進めています。また、責任投資（ESG 投融資およびスチュワードシップ活動）をその主要な取組みの一つとして位置づけ、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、責任投資に取り組んでおり、本ファンドへの投資はその一環として行うものです。

今後も、責任投資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでいきます。

以上